

ファミ通ゲームソフト・ハード売上ランキング 2020 年年報

2020 年国内家庭用ゲーム市場規模は 3,673.8 億円。

- ・Nintendo Switch が牽引、3 年ぶりにハード/ソフト市場前年増。
- ・ソフトランキングは「あつまれ どうぶつの森」が圧倒、600 万本を超える販売本数で堂々の年間首位に。

ゲーム総合情報メディア「ファミ通」は、2020 年の国内家庭用ゲームソフト(パッケージ版のみ)とハードの売上速報をまとめました。集計期間は 2019 年 12 月 30 日～2020 年 12 月 27 日です。

【市場規模比較】

	ハード	ソフト	合計
2020年(52週)	1,856.6 億円	1,817.2 億円	3,673.8 億円
2019年(52週)	1,595.4 億円	1,669.0 億円	3,264.5 億円
昨年対比	116.4%	108.9%	112.5%

※ソフトはパッケージ版(ダウンロードカード、本体プリインストール版を含む)のみの推計(ダウンロード販売、アイテム課金などのデジタル決済は含まず)

※2019 年の集計期間は、2018 年 12 月 31 日～2019 年 12 月 29 日

【各ハードの販売台数】

(累計販売台数の集計期間は各発売日～2020 年 12 月 27 日/単位:台)

ハード名	メーカー名	発売日	推定年間販売台数	推定累計販売台数
Nintendo Switch ^{※1}	任天堂	2017/3/3	5,956,943	17,340,374
プレイステーション 5 ^{※2}	ソニー・インタラクティブエンタテインメント	2020/11/12	255,150	255,150
Xbox Series X S	日本マイクロソフト	2020/11/10	31,424	31,424
プレイステーション 4 ^{※3}	ソニー・インタラクティブエンタテインメント	2014/2/22	542,647	9,290,890
Xbox One ^{※4}	日本マイクロソフト	2014/9/4	3,585	114,831
ニンテンドー3DS ^{※5}	任天堂	2011/2/26	62,761	24,558,908

※1: Nintendo Switch Lite を含む合計値です。

※2: プレイステーション 5 デジタル・エディションを含む合計値です。

※3: プレイステーション 4 Pro を含む合計値です。

※4: Xbox One S、Xbox One X を含む合計値です。

※5: ニンテンドー3DS LL、New ニンテンドー3DS、New ニンテンドー3DS LL、ニンテンドー2DS、New ニンテンドー2DS LL を含む合計値です。

【2020年家庭用ゲームソフト販売本数 TOP10】

(累計販売本数の集計期間は各発売日～2020年12月27日／単位:本)

順位	ハード	タイトル	メーカー	発売日	推定年間販売本数	推定累計販売本数
1	Switch	あつまれ どうぶつの森	任天堂	2020/3/20	6,378,103	6,378,103
2	Switch	リングフィット アドベンチャー	任天堂	2019/10/18	1,591,366	2,087,005
3	Switch	桃太郎電鉄 ～昭和 平成 令和も定番！～	KONAMI	2020/11/19	1,233,023	1,233,023
4	PS4	ファイナルファンタジーVII リメイク	スクウェア・エニックス	2020/4/10	949,379	949,379
5	Switch	ポケットモンスター ソード・シールド	ポケモン	2019/11/15	892,456	3,880,590
6	Switch	マリオカート8 デラックス	任天堂	2017/4/28	798,174	3,457,183
7	Switch	大乱闘スマッシュブラザーズ SPECIAL	任天堂	2018/12/7	560,122	4,013,174
8	Switch	Minecraft	日本マイクロソフト	2018/6/21	556,982	1,702,921
9	Switch	世界のアソビ大全 51	任天堂	2020/6/5	519,649	519,649
10	Switch	スーパーマリオ 3D コレクション	任天堂	2020/9/18	492,620	492,620

※パッケージ版(ダウンロードカード、本体プリインストール版を含む)のみの推計(ダウンロード販売、アイテム課金などのデジタル決済は含まず)

2020年の国内家庭用ゲーム市場について

2020年の家庭用ゲーム市場規模は、ハードが昨年対比116.4%の1,856.6億円、ソフトが同108.9%の1,817.2億円、合計で同112.5%の3,673.8億円となりました。ハード・ソフトともに前年比プラスとなるのは、2017年以来3年ぶりとなります。

年間ソフトランキングは、637.8万本を販売した「あつまれ どうぶつの森」(任天堂/2020年3月20日発売/Switch)が他のタイトルに大きく差をつけ、首位を獲得しました。3月の発売から、6か月連続で月間ランキング首位を獲得するなど、発売以降年末まで長期にわたって市場をリードし、Nintendo Switch本体の販売を強気に牽引しました。続く2位には、「リングフィット アドベンチャー」(任天堂/2019年10月18日発売/Switch)がランクイン。2019年は50.0万本で年間10位でしたが、2020年には159.1万本を売り上げ、Nintendo Switch向けソフトで7本目のダブルミリオン到達となりました。また3位には、4年ぶりのシリーズ最新作「桃太郎電鉄～昭和 平成 令和も定番！～」(KONAMI/2020年11月19日発売/Switch)が123.3万本と、ミリオンヒットを達成しています。

ハード市場では、Nintendo Switchが2機種合計で595.7万台を売り上げ、2017年から4年連続で年間販売台数のトップとなりました。同ハードは2017年3月に発売されましたが、2020年は発売4年目ながら過去最高の年間実績で、2019年(449.4万台)の1.3倍とめざましい勢いを見せています。2位のプレイステーション4は、年間54.3万台を販売。11月に登場し、現在も品薄が続くプレイステーション5は、25.5万台を売り上げました。

今後、ハード市場では新世代機の品薄解消時期に注目されますが、ソフト市場ではNintendo Switchの「モンスターハンターライズ」(カプコン/2021年3月26日発売予定/Switch)への期待が高まります。巣ごもり需要の恩恵を受けた2020年に続いて、2021年は家庭用ゲーム市場にどのような変化が起きるか、引き続き注目が集まります。

<出典:ファミ通>

(注)ソフトの売上本数については、集計期間中に店頭(通販含む)で販売されたすべてのタイトルを対象としています。
2種類以上のバージョンや周辺機器・本体等との同梱版が発売されているソフトのデータは、すべての種類を合計した数字となります。
(発売日は前に発売されたもの、価格は通常版を表示しています)

※本データの引用を希望される場合は、事前にご相談の上、出典が「ファミ通」である事の明記をお願いします。

※本調査データは、KADOKAWA グループのシンクタンクである角川アスキー総合研究所が調査し、KADOKAWA Game Linkage に提供しています。

◆ファミ通について



ファミ通グループでは、ゲーム総合誌「週刊ファミ通」(毎週木曜日発売)をはじめとするファミ通各誌、「ファミ通.com」や「ファミ通 App」といったゲーム情報サイトなど、様々なサービスを展開しています。また、電子出版事業にも積極的に取り組み、「週刊ファミ通」電子版や、ゲーム攻略本・設定資料集の電子書籍を多数配信しています。

<https://www.famitsu.com/>

◆株式会社 KADOKAWA Game Linkage について



株式会社 KADOKAWA Game Linkage(代表取締役社長:豊島 秀介)は、株式会社 KADOKAWA の 100%子会社です。『ファミ通』『ゲームの電撃』ブランドをはじめとする情報誌の出版、Web サービス運営、動画配信といったゲームメディア事業を展開しています。そのほかイベント企画や e スポーツマネジメントなど、ゲームにまつわるあらゆる分野で新しい価値の創出に挑戦。ゲームとユーザーの熱量を高め、ゲームの面白さや楽しさをさらに広げてまいります。

公式サイト URL: <https://kadokawagamelinkage.jp>

◆株式会社角川アスキー総合研究所について

角川アスキー総合研究所

KADOKAWA ASCII Research Laboratories, Inc.

角川アスキー総合研究所は、KADOKAWA グループに属する法人向けのシンクタンク、リサーチ・メディア企業です。

KADOKAWA グループの持つコンテンツ力、メディア力、リサーチ力に関する技術力を活かし、日本のメディア・コンテンツ産業に貢献すべく、課題となる重要テーマに日々取り組んでいます。

公式サイト URL: <http://www.lab-kadokawa.com>